



千一ム浦小

R4.4.22

NO.3

《担当として》

昨日、久家先生から「校長先生、体育の見方・考え方についてこんな風にまとめたんですが、これを体育館に貼ってもいいですか」と提案がありました。本校の体力・運動能力については、ここ数年の課題であり、今年度取り組んでいかなければならないことの一つです。子どもたちが、体育の授業の中で指示されたことだけを真面目に取り組むのではなく、自分たちで課題を見付け、よりよい方法を考えて取り組み、できるようになるという授業スタイルは、本校が今年度から取り組もうとしている「自ら課題に気づき、よりよく解決しようとする力の育成」という研究主題に迫ることにつながります。体育主任として自ら考え提案してくれたこと、先生自身が研究主題に向かって動いてくれていることがとてもうれしく、頼もしく感じました。と同時に、改めて各教科の「見方・考え方」について再確認しなければと気付かせてくれました。裏面に掲載しているので、今後の各教科の授業で意識していきましょう。また、これまでのことにとらわれず、「子どものために、こうしたらもっとよくなるのではないか」と思うことがあれば、提案してくださいね。

《中部地区公立小・中学校長会から》

昨日は、中部地区の校長会があり、この4月に就任された長岡幹泰県教育長からは、「子どもたちが、これからの社会の発展を担う人材として育つよう、子どもの成長に責任を持って学校で教育を行ってほしい」とのお話がありました。その後、各課からの今年度の取組をお聞きしました。その中で、中部教育事務所からは、①学力調査から見られる傾向、②日々の授業の振り返り、③きもちメーターの活用、④学力向上への取組等の説明がありました。詳しくは、資料を回覧します。具体例を参考にしてみてください。

【日々の「振り返り」を大切に！】

○子どもにとって

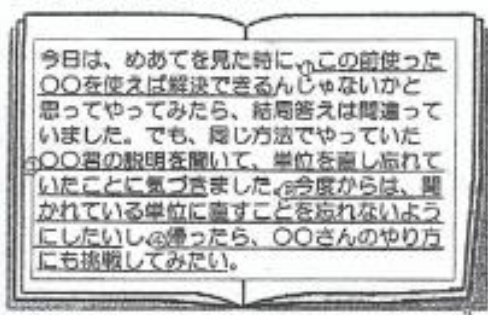
- ・ 思考の流れや結論等をまとめる過程で、内容理解がより確かになる
- ・ 個々に応じて書くことができる
- ・ 条件に合わせて「書くこと」が当たり前になり、記述式問題にも対応できる

○教員にとって

- ・ 「振り返り」は、授業スタンダードに位置づけられている
- ・ 「振り返り」から、つまずきや伸びの状況、意欲等把握でき、次時の授業展開につなげることができる
- ・ 評価の根拠資料になる ⇒小さな伸びを褒める材料になる ⇒保護者にも伝えられる



ある学校での振り返り



《振り返りのポイント》

- ① 既習事項を使おうとしている
- ② 友だちとの関わりから気付いている
- ③ 次への意欲が見られる（～したい）
- ④ 家庭学習につながっている

令和4年度浦ノ内小 校内資料

「見方・考え方」とは何か？

各教科等における「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で考えていくのか」という、その教科等ならではの物事を捉える視点や考え方のことです。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることこそ、教師の専門性が発揮されることが求められています。なにより、子どもたちに必要な資質・能力を育てていくためには、教科を学ぶ本質的な意義を明らかにする必要があります。子どもたちは、各教科の授業の中で習得した知識を活用したり、身に付けた思考力を発揮したりしながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりします。その過程、物事を捉える視点や考え方が鍛えられていきます。これが「見方・考え方」です。

★見方⇒物事を捉える視点 ★考え方⇒思考の進め方や方向性 のことです。

★各教科の見方・考え方

教科	見方・考え方（根拠：小〔中〕学校学習指導要領解説 ○○編）
国語 「言葉による見方・考え方」	言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童（児童）が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり、問い直したりして、言葉への自覚を高めること
社会 「社会的な見方・考え方」	社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること
算数 「数学的な見方・考え方」	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること
理科 「理科の見方・考え方」	〔見方〕⇒ 「エネルギー」を柱とする領域 主として量的・関係的な視点で捉えること 「粒子」を柱とする領域 主として質的・実体的な視点で捉えること 「生命」を柱とする領域 主として多様性と共通性の視点で捉えること 「地球」を柱とする領域 主として時間的・空間的な視点で捉えること 〔考え方〕⇒比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること
音楽 「音楽的な見方・考え方」	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること
図画工作 「造形的な見方・考え方」	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと
家庭 「生活の営みに係る見方・考え方」	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること

<p>体育・保健体育 「体育の見方・考え方」</p>	<p>運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること</p>
<p>体育・保健体育 「保健の見方・考え方」</p>	<p>個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること</p>
<p>外国語活動・外国語 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」</p>	<p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること</p>
<p>特別の教科 道徳 「道徳科における見方・考え方」</p>	<p>様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えること</p>
<p>総合的な学習の時間 「探究的な見方・考え方」</p>	<p>各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方のこと</p>
<p>特別活動 「集団や社会の形成者としての見方・考え方」</p>	<p>各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結びつけること</p>